

北社会ニュース 第38号

2007年11月19日

発行者：鈴木壮夫

先週、ボージョレヌーボー発売開始日、恒例となった高11回・北陵ピンピン会参加のため仙台に行きました。仙台駅周辺は各所で高層ビルが建設中でしたし、夜の国分町も相変わらずの賑わいでした。でも、時代の変化もありました。50年前、二高在学中の大きな書店といえば高山書店・宝文堂・金港堂の三店でした。十数年前、高山書店は閉鎖そして今回宝文堂が数ヵ月前やはり廃業したことを知りました。定かではありませんが、“本が売れなくなった”ことが主たる原因と聞きました。「学都仙台」に影響はないのだろうかとややショックでした。一方、さすが仙台と痛感させられたのは仙台市博物館で開催されている「東北大学の至宝」特別展を拝観、100年の歴史を垣間見た楽しい時間でした。魯迅の銅像と向き合い、周囲の紅葉に眼を転じた時青葉城の高みからトンビがピーヒャララと鳴いてくれた。私にとっての“聖地”は健在そのものでした。

(1) 本日、第257回北社会

講師：高橋長偉氏（高11回） 宮城県議会議長

演題：「宮城県の富県戦略」 “みやぎの豊かな未来のために”

宮城県議会議長に就任した

たかはし ちょうい
高橋 長偉さん

表舞台

開かれた岩手、宮城、山形、五期目。真議になるつ形三県の自動車産業商談もりはなかったが、衰退会には自費で赴き、幹部、する地元を何とかしようらに宮城を売り込んだ。と志したと振り返る。

「県執行部の報告書を議員に支給される政務読むだけでは政策提言は調査費や海外視察の在りできず、職責を果たせな方に、厳しい視線が向けい。現場を見なければ、られている。「議員の能十分な判断はできない」力を高めるための公費支二十代から三十代にか援は必要。透明性を高め、



フットワークが軽く、信条は「現場主義」だ。昨年八月、愛知県豊田市のトヨタ自動車本社で川町(現南三陸町)生まれ。一九九一年に初当選

南三陸の旧宮城県志津川町(現南三陸町)生まれ。一九九一年に初当選

「経営感覚を生かしたい」と意気込む。

「電子部品製造など」を手掛ける企業三社を興した。県の行財政改革や人事システム改善に、「経営感覚を生かしたい」と意気込む。

経営感覚 改革推進の力に

議員特権と言われないシステムにしたい」と改革姿勢を強調する。

所属する「自民党・県民会議」は、絶対安定多数を占める最大党派。それだけに、数の力に頼らない手腕が問われる。

「少数意見は封じない。財政再建と経済活性化を同時に進めるため十分議論し、県執行部に言いにくいことを積極的にぶつける環境を整えたい」

「温かみがあり信頼できる人柄」というのが周囲の評。仙台二高から東北学院大、社会人を通じ、ハンドボールで十年連続、国体に出場した。「体力は若い議員に負けません」と胸を張る。

リラックスできるのは就寝前の音楽鑑賞。ポプスからボサノバと幅広い。南三陸町の自宅に妻雪子さん(68)、長男夫婦と孫二人、母と七人暮らし。六十六歳。

(2) 次回の北社会

来年、1月15日(火)新年会(会計報告及び会員スピーチ)

(3) 柏葉校長先生にお会いして、最近の母校の様子を拝聴しました。

11月15日(木) 秋晴れ～雨～強風～冬空、仙台の天気はめまぐるしく変わりました。少々早めに母校に到着したので、運動場に廻ってみました。当日午後はホームルームで各組が自主的にそれぞれのテーマを決めて行動する日だそうです。1年生は焚火で焼き芋を作っているらしく三ヶ所から煙がでていたり、女子だけでサッカーを興じている組もありました。ドリブル、パス、シュート等々なかなかの出来栄でした。

校長先生は約1時間半も時間を作っていただきました。4月に共学化になって7ヶ月、母校は力強く歩んでいると実感しました。教師と生徒が大きな目標に向かっていく一体感を私は理解しました。9月に開催された第59回北陵祭のテーマは“先代に恋ふ”だったそうです。「せんだいにこう」と読ませ、共学になっても忘れてならないのは107年の伝統であり、過去に固執しすぎてはだめだが、先代の教えに従っていかねばならない。北陵祭実行委員長 高橋悠太君はパンフレットに下記のように記している。

『もっと高く、もっと巧く、もっと面白く・・・その言葉を身に刻み込み、ただひたすら今日この日まで走ってきました。去年までとは全く違った体制で、110余名の委員を抱え、転びながらも走ってきました。私達が作り上げた最高傑作が今、目の前に広がっています。2007年、仙台二高は新たな世界に辿り着きました。創立107年目にして、初めて女子生徒が入学し、様々な変化がありました。その変化を惜しむ人、変化に二高の進歩を感じる人、様々いると思います。しかし、仙台二高はいまだ健在です。そしてこれからも更に発展していくと思います。今回の北陵祭で、二高の持つポテンシャルを披露してみせましょう。今までの仙台二高を作り上げてきた先代の英雄達に敬意を表し、また来てくださる少年少女たち、そして“かつて”少年少女だった大人の方々に「学生達の情熱」をお見せしましょう！どうぞ最後まで二高の作り出す青春の情熱を感じていってください。』

素晴らしい後輩の意気込みです。適切で愛情溢れる教師の指導があるからだと思います。柏葉校長先生は“教育を想う”という随想の中で次のように記しておられます。

『朝、学校に着くと、先ず校舎を一巡する。教室の前を通るとすでに静かに机に向かっている生徒の姿に出会う。部活動も後輩達に引継ぎ、生活を受験モードに切り替えた三年生の見事な集中力にはいつも驚かされる。頼もしく思う。時には、座禅僧に見るような美しさをその姿に感じ、心が研ぎ澄まされるような感動に全身を満たされる。そのたびに思う。青年の美しさはかくあるべしと。』

『生徒諸君の姿は私の想いをはるかに超えてさらにさらに真っすぐである。心洗われる日々である。そして、ひそかに願う。われ、青年のため不可視の一滴とならん。』

少々キレイごと過ぎると思われる方もおられるでしょう。でも、2年間未組織の応援団も9月の選挙で応援団長が信任され復活。お話しの後、校舎内をご案内いただいた。教室や図書館で自習している生徒が目立つ。夜7時まで可能。先生達も親身になって指導しているとも聞きました。「風格と品格のある学校」という目標を私達も応援しましょう！